

4/27
朝日

「異質」切り捨て 加速を懸念

問 「共謀罪」

表現者から



作家 落合恵子さん(72)

市民運動の現場には、「分断」への懸念が広がっている。

「共謀罪」法案の国会審議を見ていると、無理に通そうとしているのがありあり。法務大臣でさえ答弁が危ういから法務省の刑事局長に答弁させる。テロ防止とは別問題なのに、東京五輪を引き合いに出す。国民に対するフェアな姿勢ではない。人間にとって何を考えるかは

おちあい・けいこ 元文化放送アナウンサー。主な作品に「ザ・レイプ」「質問 老いることはいやですか?」など。

基本的な権利だ。共謀罪の問題

点は「心の内」さえ処罰すること。「一般の人には適用されない」と言うが、信じられない。

30年ほど前、戦時中に軍事機密を漏らしたとして、北海道帝国大学(当時)の学生が逮捕された冤罪事件を取材した。学生の妹や弁護士に話を聴いたが、「スパイ」がぬれぎぬだと明らかにした後も、周囲からの偏見は消えなかったと感じた。

共謀罪によって警察の動きが強まるのは間違いない。さらに恐ろしいのは、国民がその影響を受けることだ。私は長い間、

市民運動にかかわってきたが、「運動は危ない」「近づくな」となりかねない。共謀罪には、ある人たちを「異質だ」と切り捨てる風潮を加速させる効果もあるのではないか。

安倍政権は高い支持率なので法案を止めることは難しいという声もあるが、それでも反対していきたい。本当に話を聞いてほしいのは、抗議集会などに足を運ばない人たちだ。声高な「闘いの言葉」ではなく、関心のない人にも届く言葉で今後も問題点を伝えたい。
(聞き手・岩崎生之助 写真・迫和義)

◇ 「問う『共謀罪』 表現者からのシリーズは、今回で終わります。次は刑事司法の現場に関わってきた人たちに聞きます。